

米沢興讓館高校SSH通信

スーパーサイエンスハイスクール



第9回科学の甲子園

優秀校

第9回科学の甲子園全国大会にて、米沢興讓館高校チームが「優秀校」として選出されました。
 「第9回科学の甲子園全国大会」は中止となりましたが、各代表校が事前公開競技「積んで埼玉」への取り組みや成果について、デモンストレーション動画及びプレゼンテーション資料を提出し、審査が行われました。
 「未来に果敢に挑戦できる科学技術系人材の育成」を目指し探究的な学びを柱とし教育活動を実践しています。生徒は様々な科学的体験や探究活動を通して学んでいます。今回の結果は、探究的な学びを柱とした教育活動の成果であるとともに、学習と部活動を両立させながらも、その合間を縫って時間を有効に使い準備を進めた生徒たちの努力の成果であったと思います。

科学の甲子園

今年の科学の甲子園全国大会は、コロナウイルスの影響で筆記競技・実験競技は行えず、実技競技のみとなりました。その実技競技も研究の成果をプレゼンテーションシートとデモンストレーション動画を作成することでの審査となりました。全国大会が通常開催されなかったことは残念なことでしたが、できる限りのことはやろうという事で、休校中もオンラインで集まり研究を重ね、期限ぎりぎりまで改善を繰り返しました。結果私たちは研究の成果を認められ、優秀校に選出されました。決め手は独創性やプレゼンシートの情報の明確さが高く評価されたということだったので、興讓館SSH探究活動で学んできた成果が発揮できたのかなと思います。

優秀賞をいただいたいて、何より自分たちのしてきたことが認められたということが嬉しかったです。伝える力というものは本当に大切なんだという事を今回の結果から改めて学びました。科学の甲子園に参加して、もちろん科学の知識は多く得られたことを本当に感謝しています。

三年 男子



科学の甲子園 最高賞に米沢興讓館

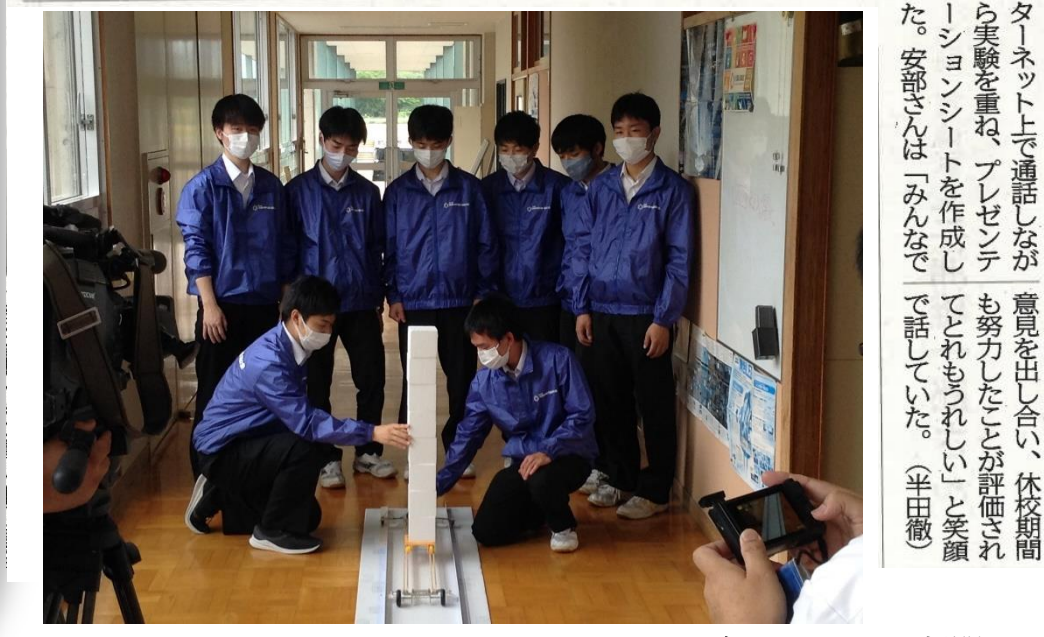
設計に工夫、独創性評価

高校生が科学の知識や技能を競う科学の甲子園全国大会のプレゼンテーションが、千葉県の高校と並び最高賞の優秀賞に輝いた。新型コロナウイルスの影響で中止となった大会の代替審査で、休校期間中もオンラインで実験を重ねた生徒たちの努力が実を結んだ。昨年10月、当時の2年生から選抜された8人のチームが県大会でトップの成績を収め、今年3月にさいたま市で開催される全国大会で、筆記と3つの実技種目で順位を競う予定だったが、都道府県の各代表が競う本大会は中止となったが、主催する科学技術振興機構の審査で、与えられた素材で電子回路を組み込んだ台車を制作し、制限時間内にコースを往復しながら運んだアロックスの量を競うもので、高く積んだ荷物を崩さずに発進、停止させる慣性制御の発想がポイントになる。ゆっくり停止させるために電子回路を工夫する学校が多い中、同校は約1.5倍の長さの台車の上に、レールと小型台車を設置した。これにより、急ブレーキがかかっても小型台車がレール上を滑ることで慣性を抑えることができ、独創的なアイデアが高く評価された。

臨時休校の期間はキャプテンの安部央人さん(17)が家で台車を制作し、イン

(JST)は、全国の生徒たちが既に予備実験に取り組んでいた事前公開課題の実技1種目について審査による審査を行った。審査は全国22校を対象となった。競技内容は、与えられた素材で電子回路を組み込んだ台車を制作し、制限時間内にコースを往復しながら運んだアロックスの量を競うもので、高く積んだ荷物を崩さずに発進、停止させる慣性制御の発想がポイントになる。ゆっくり停止させるために電子回路を工夫する学校が多い中、同校は約1.5倍の長さの台車の上に、レールと小型台車を設置した。これにより、急ブレーキがかかっても小型台車がレール上を滑ることで慣性を抑えることができ、独創的なアイデアが高く評価された。

臨時休校の期間はキャプテンの安部央人さん(17)が家で台車を制作し、イン



2020年7月4日 山形新聞より

